

共生社会ホストタウン追加登録団体の活動計画（2020年4月7日）

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
札幌市 (北海道)	ウクライナ (ゴールボール)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・日本人パラリンピアン等を講師として、教員や障害者スポーツ指導員を対象としたシットスキー等の指導者養成講習や、市民を対象とした冬季パラスポーツ体験会を継続的に実施している。今後、ウクライナゴールボール代表による学校訪問やゴールボール体験会を実施するとともに、大会後もウクライナとの交流を継続し、2022北京冬季オリンピックの合宿誘致を目指す。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・地下鉄駅へのエレベーター設置（全駅設置済）や増設、UDタクシーやノンステップバスの導入補助といった公共交通のバリアフリー化のほか、円山動物園（点字ブロック、エレベーター設置等）や公園等のバリアフリー化を進めている。また、公共施設のバリアフリーチェックやバリアフリータウンマップ作成も行っている。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・円山動物園で障害者を無料で招待する「ハーティナイト」を2006年から継続して実施している。また、「心のバリアフリーガイド」の配布、市民向け出前講座、障害児童文化作品展等も実施している。さらに、企業や地域で普及啓発を担う「心のバリアフリー普及員・推進員」の養成研修を2020年度より新たに実施する。</p>
登別市 (北海道)	デンマーク	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・大会後、デンマークのパラリンピアンを招へいし、講演会、実技等小中学生との交流を実施する。また、2020年度に、小中学校において車いすテニス選手の講演会を実施するほか、大会後もパラアスリートを招へいし実技指導や講演会を開催する等、障害理解を図る取組を進めていく。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・JR登別駅にエレベーターを設置するため、2020年度から入湯税の超過税率を導入し財源の確保に努めるとともに、観光客が増加する春節の時期に合わせて同駅構内でポーターサービスを実施している。また、障害者団体と市長他が定期的に意見交換し、市民会館のトイレへの手すりの設置等につながっている。さらに、店舗のスロープや手すり等を設置する経費を助成している。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・小中高専門学校生が就労支援施設等を利用している障害者と交流する「夏休みハートフル体験学習」、「市民スポーツ・健康フェスティバル」でポッチャの体験会、障害者週間等における小中学生等を対象としたパラアスリートの講演会・パラスポーツ体験、あいサポーター研修（受講者延べ約1900名）を毎年実施しており、今後も継続していく。</p>
陸前高田市 (岩手県)	シンガポール	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・日本人パラリンピアンとの交流や、パラスポーツを題材に障害者について学ぶノーマライゼーション推進市民講座を行ってきた。大会の事後交流では、シンガポールのパラリンピアンと児童生徒との交流会を行う。大会後も日本やシンガポールのパラリンピアンによる市民向け教室等により障害者理解等を促進する。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・震災で被災した体育館の復旧に際し、障害者を応援する企業の監修の下障害者スポーツに配慮しバリアフリー化した。また、同企業とともに出入口の広さ等を規定したチェックリストを作成し、適合審査を行って飲食店等の店舗を認証している。さらに、障害のある方から市長が道路や施設について意見を聞く機会を年数回設け、施策に反映している。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・2018年9月のまちびらきに併せて、飲食店やスーパーマーケットに筆談ボードを配布した。2019年6月には「ユニバーサル就労支援センター」を開所し、障害者等の居場所づくりと就労支援を行っている。また、会社経営者を行う障害者による講演会や、手話通訳で対応する職員の市役所への配置も行っている。</p>
登米市 (宮城県)	ポーランド (パラボート)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・大会前後にポーランドパラリンピアンを招待し、市内ボート場でのボート部員との交流や報告会等を行う。また、今後、日本人パラボート選手と中・高ボート部員等と模擬レースや補助者のサポート体制体験等を行うとともに、毎年2回開催されているアーチェリー大会にパラ選手を招へいし大会の拡充や交流を図る。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・長沼ボート場クラブハウス（2018年供用）、高森パークゴルフ場（2019年供用）、登米懐古館（2019年供用）といった拠点施設についてユニバーサルデザインに配慮して整備している。また、デマンド型乗合タクシー実証運行、精神障害を含む障害者手帳所持者のバス運賃無料化、車椅子使用者等が乗降しやすい乗り合いバス車両の導入、ゆずり合い駐車場の周知啓発等障害者や高齢者が外出しやすい環境づくりを推進している。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・みんなで楽しめるイベントである東北風土マラソン&フェスティバルで、障害のある約50名が伴走者と一緒にランニング等を楽しめるプロジェクトを継続的に実施している。また、ヘルプマーク・ヘルプカードの推進、障害者スポーツ大会、手話奉仕員養成講座や市民向け手話教室等を行っている。今後、住民組織であるポーランドボートチームを応援する会等において、心のバリアフリー学習を行う。</p>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
加美町 (宮城県)	チリ (パラカヌー、パラ陸上等)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・チリのパラカヌー選手の合宿を受け入れ、選手の意見を参考に宿泊施設である「やくらいコテージ」のバリアフリー改修工事を実施した。大会の事前合宿に際しても、相手国や県内外のパラリンピアンを招へいし、スポーツフェスティバル等の交流や試合会場での応援を行うとともに、今後、市民ボランティアを募集する。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・体験で得られたことを日常生活にも繋げていけるよう、小学生が車椅子体験を行いながら学校周辺の歩道や店舗、公共施設等のまち歩き及びバリアフリー点検を行ってバリアフリーマップ作成する予定。また、事前合宿で利用するカヌー場のシャワールーム、トイレのバリアフリー化を2019年度に完了した。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・すべての人々の総理解を深めることを目的に、車いすバスケの監督を招き講演会を実施した。今後は、町職員に対し障害の社会モデルや合理的配慮についての心のバリアフリー研修を行うとともに、町民ポッチャ大会等のパラスポーツ体験イベントによりパラスポーツに対する理解を深めていく。</p>
能代市 (秋田県)	ヨルダン (パワーリフティング、パラ卓球、パラ陸上)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・ヨルダンのパラチームの事前合宿を受け入れ、市民とのスポーツ、文化等の交流を行うとともに、同チーム関係や地元の障害当事者にホテル、観光施設、スポーツ施設のバリアフリー上の課題を指摘頂き改善を進める。また、車いすバスケ日本代表合宿に際し小学生と交流し障害理解を深めたこととあり、今後も日本人パラアスリートとのスポーツを通じた福祉教育等の交流を継続していく。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・体育館、野球場等における障害者用観覧席及び多目的トイレの設置や、高齢者ふれあい交流施設、市役所庁舎、観光名所、公園への障害者用駐車スペースの設置、小中学校における多目的トイレの設置を進めている。今後も公共施設の改修等に際し障害者の意見を聞いてユニバーサルデザイン化を行う。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・2019年度から出前講座に手話講座を新メニューとして追加するとともに、市庁舎に磁気ループを設置し、聞き取りが困難な方を支援している。また、障害者の運動交流のため、ボランティアを募りスポーツレクリエーション大会を継続して実施している。さらに、障害者と健常者が交流する日帰り旅行やコンサート等の開催を支援している。</p>
猪苗代町 (福島県)	ガーナ (パラ陸上等)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・大会終了後ガーナパラリンピアン等と町民大運動会等で交流し、パラ競技の普及を推進する。2019年度には、町民であるスポーツ推進員も参加し、全国障害者スポーツ大会のバレーボールブロック予選を開催した。また、全町民を対象に、障害の有無に係わらず楽しめるニュースポーツ体験会を毎年継続して開催している。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・ガーナNPCによる体育館や宿泊施設のバリアフリー点検を実施する。また、ガーナチームが事前合宿を行う陸上競技場や、道の駅、図書歴史情報館のトイレを始めとして、今後とも、公共施設等の建設・改修に際し、「みんなが心地よく暮らせるまち」を目指し、バリアフリー化を推進する。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・地域住民が参加する特別支援学校の学校行事の開催、小学校と特別支援学校との相互訪問による交流、特別支援学校行事への高校生のボランティア参加といった、特別支援学校を核とした障害等への理解推進を継続的に行っている。また、町内に数多くある障害者福祉施設ごとに、地域住民と触れ合う場等を設けている。</p>
北本市 (埼玉県)	アルジェリア (パワーリフティング、車いすバスケ、ゴールボール、パラ柔道)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <p>・アルジェリアパラリンピック選手等の事前合宿を受け入れ、公開練習や体験教室を行うとともに、練習補助のためのボランティアスタッフを配置し、選手等との交流を図る。また、日本人パラアスリートによる学校訪問や市民向け講演会を行っており、今後は、地元パラアスリートと市民との交流も実施する。</p> <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <p>・体育センターや野外活動センター、子供公園のトイレ改修等、障害者等が円滑・安全に利用できる公共施設の整備を継続的に進めている。また、公共施設、コンビニエンスストア等の障害者対応トイレマップをホームページで公表している。さらに、アルジェリアパラチームに体育センターのバリアフリー上の指摘をもらい、改善につなげる。</p> <p>【心のバリアフリー】</p> <p>・毎年開催しているウォーキングイベントに車椅子で参加できるコースを設定している。また、小学4年生が車椅子体験や盲導犬講習会等を継続して行っている。2018年に手話言語条例を制定し、啓発リーフレットを全戸配布するとともに、新規採用職員への手話研修や聴覚障害者も参加する防災訓練を継続的に実施している。</p>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
長岡市 (新潟県)	オーストラリア (パラ水泳)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアのパラ競泳チームの事前合宿を受入れ、公開練習やクリニック等の市民交流を予定している。また、車いすバスケット女子日本代表のキャンプを受入れ、小学生との体験教室を行う等、日本人パラリンピアンとの交流を数多く実施しており、今後も積極的に実施していく。 <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合交流施設アオーレ長岡が、バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰を受賞するなど、これまで公共施設や長岡駅周辺のバリアフリー化を推進してきた。今後も、今年開設予定の道の駅「ながおか花火館」をはじめ新設施設と優先度の高い施設のバリアフリー化を継続実施するとともに、民間事業者等にも働きかける。 <p>【心のバリアフリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児者のための水泳教室・テニス教室やパラスポーツの指導者・ボランティアを養成する講習会、特別支援学校等へのスポーツ指導者の派遣を、継続的に実施している。今後、例年開催している障害者等を対象としたスポーツ体験イベントを拡充し、ポッチャ選手との交流行うとともに、健常者の参加を募る。
志賀町 (石川県)	アゼルバイジャン (パラ柔道等)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アゼルバイジャンのパラリンピアンとの事前合宿を受け入れ、盲学校を訪問しパラ聖火リレー採火式に参加したとともに、柔道選手や陸上部生徒との合同合宿を実施する。また、中学生の修学旅行に際して体育大学のパラリンピアンとの交流を行う。さらに、大会後には町内の太鼓団体が相手国を訪問し、パラリンピアンや障害者施設で文化交流を図る。 <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町中心部のバスターミナルの点字ブロック設置等のユニバーサルデザイン化や、全小中学校における多目的トイレの設置が完了しており、公民館や避難所施設等の多目的トイレの設置等も順次を進めている。また、作業訓練所に通所する精神障害者への交通費助成を実施している。今後、アゼルバイジャンチームの合宿を契機に、体育施設や公共施設、観光施設等のバリアフリー確認を行う。 <p>【心のバリアフリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町役場に職員として手話通訳者を配置するとともに、若手職員が広報誌で手話を紹介するなど、2021年度の手話言語条例の制定に向けて取組を進めている。また、障害者スポーツイベントを継続的に開催しており、今後、町民を対象にスポーツ推進員によるパラスポーツ講習会等を実施し、心のバリアフリーを促進していく。
福井市 (福井県)	スロベニア (パラ水泳等)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スロベニアのパラリンピアンと地元パラ水泳選手や障害者水泳チームの子供たちとの共同練習や、パラ委員会関係者と地元パラアスリートによる中学校での講話と車椅子体験を実施した。また、障害の有無に関わらず誰もが参加できる卓球バレー市長杯を開催しており、これを継続していく。 <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内に「公共施設バリアフリー連絡調整会議」を設置し、課題共有や複数部局に関連する整備方針の検討等を行っている。また、障害のある方とともに図書館や駅周辺等の調査点検を継続して実施している。さらに、通学路や駅周辺の歩道拡幅及びバリアフリー化に継続して取り組んでいる。 <p>【心のバリアフリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度に手話言語条例及び障害者コミュニケーション条例を制定した。また、総合防災訓練への障害当事者の参加や、避難所での聴覚障害者等に対応した指差し式のコミュニケーション支援ボードの配置、災害時に周囲に支援が必要であることを伝えるための障害者用防災スカーフの配布等、障害者にスポットを当てた災害時配慮者対策を実施している。
山梨市 (山梨県)	キルギス (パワーリフティング)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キルギスのパワーリフティング選手の事前合宿を受入れ、パワーリフティングのトレーニング器具を活用したスポーツ体験会等による市民交流を実施する予定。また、地元パラ走高跳び選手の講演会や義足体験会を小中学校で実施している。今後とも、共生社会の促進とキルギスとの友好交流のための取組を継続していく。 <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前合宿受け入れや今後の障害者スポーツ推進のため、市民総合体育館のトレーニングフロアのバリアフリー改修を行った。また、山梨市駅についてエレベーターを設置したところであり、今後、練習会場・ホテル・駅周辺のバリアフリーマップの作成、観光案内所等でのバリアフリー情報の発信を予定している。 <p>【心のバリアフリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市職員を対象に、地元パラ走高跳び選手を講師とする心のバリアフリー研修会を実施した。また、全小中学校で地元パラ走高跳び選手等により、心のバリアフリーや障害理解をテーマにした講演会や義足体験をしたところであり、今後も対象を市民に拡充し心のバリアフリー研修を継続して実施する。

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
岡山市 (岡山県)	台湾 (パワーリフティング)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾のパラパワーリフティングの事前キャンプを受入れ、小学生との交流やパブリックビューイングを通じて、パラスポーツの普及と多様性を認め合う市民の意識醸成を図る。また、地元パラアスリートと小中学生等との交流事業を多数開催している。大会後も、これらの交流を継続していく。 <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 車椅子利用者が一人で外出できるよう、路面電車と路線バスの低床車両の導入、JR桃太郎線のLRT化、バス停のバリアフリー化、UDタクシーの導入等を進めていく。また、公共施設、道路、ホテル、店舗の設計段階で障害のある方等からの意見を聴き（原則毎月開催）整備に反映する設計支援委員制度を設けている。 <p>【心のバリアフリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者団体等の参画の下、ユニバーサルデザイン・共生社会推進基本方針を策定した。また、民間資金を活用した就労支援、障害者のための就職面接会の開催、働く障害者の交流拠点の開設等、障害者等の就労を支援している。さらに、移動図書館で障害のある子どもの自宅を訪れ、本の読み聞かせを継続的に行っている。
島原市 (長崎県)	ドイツ (パラ陸上)	<p>【パラリンピアン等との交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイツパラ陸上代表の事前合宿を受入れ、市民と共同でのパラ聖火リレー採火式関連イベントや障害児等との交流を実施するとともに、ホテル、観光施設等についてアドバイスを頂きバリアフリー化を推進する。2018年から小学生を対象に日本人パラリンピアンへの講演やスポーツ交流を実施しており、今後も継続していく。 <p>【ユニバーサルデザインの街づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市庁舎の建替え、音声案内付き観光案内版の設置、公衆トイレの多目的トイレ化、段差のない歩道や点字ブロックの整備等、公共施設もユニバーサルデザイン化を実施している。今後も、障害のある方とともに危険度チェックや安全点検を実施し、障害者にやさしい街づくりを行う。 <p>【心のバリアフリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2019年に手話言語条例を制定し、手話奉仕員や要約筆記奉仕員の養成研修を実施している。また、障害のある方による小中学生への講話や、特別支援学校と小中学校との交流を継続して実施する等、今後とも障害者理解を促進する。